



「学校教育目標」と「令和4年度重点目標」に向けて
 「自立・貢献」～正しく 賢く たくましく～
 「新熊谷プロジェクト」によるカリキュラム改善と読解力の育成

- 豊かな人間性<正しく>**
- ・道徳教育の充実(見える化)
 - ・人権尊重と互いに認め合う仲間づくり
 - ・児童理解と指導体制の整備
 - ・よりよい生き方を身に付ける生活づくり
 - ・「みそあじ」の徹底

- 健康・体力<たくましく>**
- ・心身の健康と体力づくり
 - ・力を合わせて取り組むやる気づくり
 - ・楽しく取り組む体育の授業づくり
 - ・長縄跳びを通して体力づくり

資質・能力の育成<賢く>

何ができるようになるか
 ○学校教育の基本

何が身に付いたか
 ○各教科の学習評価

- ①学習したことや体験したことを生かして学ぶことができる。
- ②変化に積極的に向き合い、主体的に判断し課題解決することができる。
- ③個別最適な学びと協働的な学びを通して、自分の考えをよりよくすることができる。

- ①学習したことや体験したこと、学習評価等を比べたり、つなげたりしている。
- ②状況が変化しても、主体的に判断し、課題解決の方法を見出している。
- ③自分の考えをもち、学び合うことを通して、自分の考えを広げたり、決めたりしている。



子供たちをどのように支援するか
 ○配慮を必要とする子供への支援
 学ぶ教師のもとに学ぶ児童は確実に育つ

- 子供たちの実態
 ○明るく、素直、チャレンジ精神
 ●読解力の育成が大きな課題

- 目指す子供たちの姿
 ・人に優しくそをつかない子
 ・感謝、協力、奉仕の心を持った子
 ・しっかり勉強する子
 ・すすんで体を鍛える子

何を学ぶか
 ○教育課程の編成

どのように学ぶか
 ○教育課程の実施

- ・未来の社会を見据え「学力日本一」を目指す。
- ・授業の視点を通して学習内容の明確化
- ・学習習慣の確立
- ・暗唱、算数、漢字まとめテスト
- ・読書年間 10000 ページ(高学年)100 冊(低学年)
- ・高校見学、キャリア講演会の実施

- ・熊谷ラウンドシステムの活用
- ・玉井小スタンダードの活用
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・特別支援教育の視点でカウンセラー的技法
- ・授業改善を通して全教職員の授業スタイルの確立
「今は～時間」と「授業の視点」
- ・GIGA スクール構想の活用

実施するために何が必要か
 ○指導体制の充実、家庭・地域の連携・協働
 子どもに「自信」・保護者に「安心」・地域に「関心(感心)」を与える学校
 授業力向上を目指した授業改善(教科担任制の実施と算数の少人数指導)

熊谷の子供たちは、これができます！

4つの実践
 ○朝ごはんをしっかりと食べる。
 ○呼ばれたら「はい」と元気よく返事する。
 ○「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
 ○友だちをたくさんつくる。

3 減運動
 ◇テレビの時間を減らします
 ◇ゲームの時間を減らします
 ◇スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします

正しくスマホを使います！

スマホ 使い方使い宣言
 【前文】
 スマートフォン・携帯電話等はインターネットにつなぐことができる大変便利な道具です。しかし、一歩使い方を間違えると、自分や周りの人を傷つけます。
 私たちは、スマートフォン・携帯電話等の使い方やルールを家族と約束し、誰も傷つけることなく、賢く上手に使うことを誓います。
 熊谷市立玉井小学校児童会

- 地域との連携**
- ・学校運営協議会、保育所、幼稚園、中学校との連絡協議会
 - ・民生児童委員・主任児童委員、校区連絡協議会
 - ・自治会・スクールガードリーダー・敬老会、放課後子供教室、くまなびスクール、学校ファーム

- 開かれた学校作り**
- ・学校だより、学年だより
 - ・保健だより等の配布
 - ・ホームページの配信
 - ・多文化共生の学び(武蔵野美術大学との連携)

- 専門機関との連携**
- ・スクールカウンセラー
 - ・スクールソーシャルワーカー
 - ・市役所子ども課、児童相談所、熊谷警察署